

荒川区区政改革懇談会

教育グループ第1回会議録

【日時】

3月21日（火）14：00～15：00

【場所】

荒川区役所 304・305 会議室

【次第】

1：自己紹介

4：次年度の進め方

2：これまで参加した感想

5：その他

3：次年度の検討テーマについて

グループ討議

全体会に続き、グループ討議を行った。

コンサルタントより、グループ討議に関しての説明がなされた。お互いの認識を深めるために自己紹介をするとともに、これまで参加した感想、興味ある事柄、来年度の進め方について話し合うこととした。

【これまで参加した感想・来年度の要望】

- ・ これまでのグループは子供がいる人が少なく、毎回3～4人程度しかメンバーが集まらなかったため、今年はいろいろ話を聞きたい。
- ・ 最近の教育は限定的な概念にとらわれていると感じており、壊していきたい。
- ・ これまでは、女性・主婦だけの日常的で親しみが持てるグループであったが、教育や産業・文化にも関心を持っており、今年には男性メンバーがいるグループで、生まれ育った荒川区を考えていきたい。
- ・ これまで参加して感じたことは、人により現状認識が異なることであり、今年には区担当者が説明等に來るとのことなので、共通の理解を持って議論したいと考えている。
- ・ これまで参加した1年間の様子から感じたことは、教育に対する認識が立場によりまったく違うことであり、今年にはまず認識の違いを打破したいと考えている。
- ・ これまでのグループでは、身近なごみ・環境対策等を楽しく議論できた。最近の一つの傾向として、区内ではなく区外の中学に入学するケースが見られ、区内中学校を魅力あるものにしたいと考えている。
- ・ 大学時代には教職課程をとったが、高等教育や生涯学習にも関心がある。

【今後の話し合いについて】

- ・ 幼稚園、小中学校、生涯学習やそれ以外（寿大学等）の教育も含めるのかなど、区が期待している教育の議論の範疇を知りたい。広げれば、区には大学はないが、大学との連携の話もある。
- ・ これまでは教育現場のことを知らないで議論をした。一般的には良い話しか聞かない

が、学校教育が正常な状態で行われているか疑問がある。教育委員会の職員から話を聞いたが、現実がどうなっているのか良くわからなかった。子育てとの境界の問題もあるが、原点である小中学校の義務教育の議論をしたい。

- ・ まず小中学校の議論をして、後に生涯学習等の議論をしたら良い。
- ・ 犯罪の低年齢化が大きな問題であり、解決には教育が大きな課題である。区の教育の先頭に立つ人が、現状をきちんと把握していないのではないか。
- ・ これまでは区担当がいなかったため、議論がまとまらなかった部分があり、教育委員会の学事課・指導室担当者や校長先生等に来ていただき、現場の実情を聞きたい。大学は独立行政法人になり大きく変わっている。魅力ある学校づくりも言われており、都・区の縄張りも問題である。学校経営や学級経営も必要であり、人が多く集まる場所である学校の校長先生の役割も大きい。
- ・ 幼稚園も義務教育とする議論や、幼保一元化の問題、犯罪及びその低年齢化の問題もある。荒川区の場合、校長先生が他区から来ているケースもあり、校長先生から一度話を聞きたい
- ・ 教育委員会の指導室の職員から話を聞く機会があったが、区の教育はうまくいっているとのことであった。リーダーシップをとる人の認識が重要であり、まず現状認識が必要である。
- ・ 卒業式で名前を呼ばれても出てこない人が7～8人おり、役所では、登校していることになっているようであるが、実際は不登校の可能性もある。かつては先生や友達が登校するよう迎えに来たが、今は登校しなくても良いと言われる。不登校の問題も大きい。
- ・ 卒業証書は、本来全課程を終了した場合に与えられるものであるが、最近は違う。
- ・ 生涯学習のセミナー等に参加すると、8割は女性である。今後の自分を考えると、健康で生き生きしたいという願望があり、認知症にならないための教育に関心があり、生涯学習について議論をしたい。
- ・ 学校の芝生整備等の問題も含めて、学校と地域との連携に興味がある。地域が使われない校庭は良くなれないと考えている。
- ・ 足立区では幼稚園児童の家族の3分の1が生活保護を受けているようである。荒川区に転入してくる人もあり、細かいデータがほしい。

【次回日程について】

4月以降に次回日程を通知することにした。

以 上